

留など脱炭素に向けた研究・取組が重要である。

これらの状況に鑑み、省エネルギー、地球温暖化防止や大気汚染の抑制など社会の要請に応えることを念頭にボイラーを運転するとともに、引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、ボイラーを取り扱う者はもとより近隣の住民の生命を守る安全管理、安全・安心を目指した事故防止対策を的確に推進する必要がある。

このような観点から 2024 年度のボイラーデーは、
「人と地球とボイラーと 持続可能なパートナー」
をスローガンとして展開することとする。

ボイラーデーを契機として、関係者がボイラーを取り巻く状況について認識を新たにするとともに、ボイラーの事故防止、省エネルギー、地球温暖化の防止、大気汚染の抑制の取組を強化し、我が国産業の発展、地球環境の保全に資することとする。

2. 期 日
- 2024 年 11 月 8 日
3. 主唱者
- 一般社団法人 日本ボイラ協会
4. 後援者
- 厚生労働省 環境省 経済産業省
5. 協賛者

一般社団法人火力原子力発電技術協会
一般財団法人省エネルギーセンター
公益社団法人空気調和・衛生工学会
一般社団法人日本産業機械工業会
一般社団法人日本ボイラ整備据付協会
一般社団法人産業環境管理協会

6. 実施者
- ボイラー関係事業場（以下略）

※実施事項等の詳細は、当協会ホームページ「ボイラーデー」の「本年度のボイラーデー実施要綱」をご参照ください。

(<https://www.jbanet.or.jp/conference/boiler-day/>)

情 報

ボイラー及び圧力容器関係災害の概要（確定版）

（令和 5 年 死傷者のうち（ ）内は死亡者数で内数）

番号	発生月	事業場業種	労働者数	設備の種類	災害の種類	災害の概要	主要原因	死傷者数
1	5	食料品製造業	481 名	第一種圧力容器（最高使用圧力 本体側 0.3MPa、ジャケット側 0.45MPa、内容積 本体側 10.12m ³ 、ジャケット側 1.62m ³ ）	高温・低温の物との接触	圧力容器に原料を入れて煮る作業中、本来は圧力をかけずに煮るべきところ、容器の蓋を閉めて圧力をかけていたため、圧力容器から 1.8m 離れた位置にある制御盤で蓋を開ける操作を行ったところ、蓋が開いて内容物と蒸気が噴出し、被災したものの。	圧力センサーの点検は行われていたものの、電気信号の適否の確認にとどまり、サイフォン管の詰まりまでは確認を行っていなかったため、圧力センサーのサイフォン管に詰まりがあり、安全装置が適切に作動しなかった。また、圧力計や制御盤の表示パネルにより容器の残留圧力を確認していなかった。	1（1）
2	9	化学工業	186 名	第二種圧力容器（最高使用圧力 0.93MPa、内容積 0.23m ³ ）	破裂	計装空気（制御弁の駆動や流量計などに使用する圧縮空気）をプラントに供給する設備で、圧縮空気から水分を除去するドレンセパレーター（第二種圧力容器）の鏡板の曲線部が破断し破裂したものの。	容器内部で乱流が発生したこと、局所的にエロージョン・コロージョン（エアによる機械的な摩耗と水分による腐食）により減肉が進行し、板厚が最小板厚を下回った。 ドレンセパレーターの定期自主検査では、目視で著しい腐食を認めた箇所の付近を重点的に肉厚測定することとしていたが、破断した箇所については目視で著しい腐食を発見できず、測定しづらい曲線であるため肉厚測定を行っていなかったことから、最小板厚を下回ったことを把握していなかった。	0（0）
3	10	飲食店	36 名	その他の圧力容器	破裂	料理を焼くための焼物器の天板の上に、液化ブタンの入ったカセットボンベを置いたまま調理作業をしていたところ、焼物器からの輻射熱でカセットボンベ内のガスの圧力が高くなり破裂し、3 名がカセットボンベ内の高温となったガスに触れ負傷したものの。	焼物器の作業前の点検や、カセットボンベの保管場所等に関する作業標準を整備していなかった。 また、焼物器やカセットボンベの取り扱いについて労働者への教育や訓練を行っておらず、高温となるおそれのある場所についての認識が不足していた。	3（0）

（厚生労働省に報告のあったもの）

フレームアイ

『仕事と暮らしに役立つタイミング マネジメント[®]』第 1 回「どのタイミングで行動するか」が仕事・人生の損益分岐点！

これまで研修で数多くのビジネスパーソンと真剣に向き合い、日常業務や人間関係における成功体験・失敗体験を語り合ってきましたが、成否を分ける要因のキーワードとして必ずと言っていいほど「タイミング」という

言葉がでてきます。

例えば、「報告、連絡、相談、確認、情報の共有」が大切であることは誰もがわかっていますが、そのタイミングが悪いことで、リスク（ミスやトラブル、ムダな残

業 etc.) が発生しているケースが数多くあります。「あのとき、あのタイミングで〇〇しておけばよかった…。しまったな…。」と後悔しても時すでに遅し。同じタイミングは二度ありません。タイミングを考えないで後悔するというリスクを回避することが仕事や暮らしの質を高めていきます。

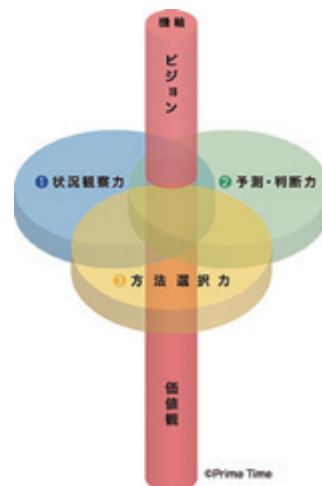
さまざまな事例を考察する中で、情報量や知識、技術、経験、特定のビジネス能力、人柄も成果につながる大切な要素ですが、よい結果を出すためには「行動するタイミング」が重要であることを確信いたしました。同じことでもやるタイミングによって結果は変わります。「どのような行動をとるか」も大切ですが、「どのタイミングで行動するか」が仕事・人生の成否を分ける損益分岐点となるのです。

「タイミング」は、あらゆる場面で結果を左右する世界共通の重要なキーワードです。「タイミング」とは、運・ラッキー・偶然という受け身のものではありません。チャンス(偶然もたらされた機会・好機)とも違います。「タイミング」とは、受け身ではなく、『主体的に「好機」(時機)を選択すること』であり、自分の意思、判断が組み込まれたものです。結果を出している人は自らタイミング(「好機」「勝機」「商機」)をつかみとっています。

「タイミングマネジメント®」は私が創作した言葉ですが、「タイミング」を主軸に判断し、意思決定することで、日々の中で発生するリスクを未然に防いで生産性や成果を向上させ、成功の可能性を高めるための実践行動学です。その定義は、『価値観とビジョンを機軸として、一つの行動が最大限の効果を発揮するタイミングをつかんで、そのとき最適な方法を選択すること』。人生・仕事の成功の秘訣を「行動するタイミング」であると考え、「タイミング」にフォーカスして時間を使うという発想です。

行動のタイミングによって生じる効果とリスクを予測し、「どのタイミングでやるか」という判断をする発想が、「いつまでにやるか」という期限と時間配分を考える「タイムマネジメント」との大きな違いです。

今年も残すところあと2か月半となりましたが、年度末に向かって「10月・11月がやるタイミング!」として着手する事柄が見える化し実行することが重要です。12月に入ると世の中全体が慌ただしい雰囲気になり、



タイミングマネジメント®の構成要素図

落ち着いて何かをする時間が取れにくくなります。

また、1月～3月は新年度の準備、人事異動、転勤、引越し、定年退職、新人受け入れのための態勢づくり、子どもの受験、卒業、入学の準備など公私ともに忙しくなることが予測されます。一年の中でも12月～3月はさまざまなことが集中する時期であることを認識して「10月・11月がタイミング!」として今やるべきことを冷静に判断し計画・実行することが、12月～年度末にかけて発生するリスクを未然に防いで成果を向上させることにつながります。

例えば、組織の中で「属人化」が問題になっている仕事がある場合、年度末になってその担当者の異動が決まってから勉強会を実施したり、業務マニュアルを作成するという余裕はなく、最低限の引継ぎしかできなかった…という話を耳にすることがあります。

期限がないことはタイミングを逃しがちです。「あのとき、あのタイミングで〇〇をやっておけばよかったな…」という後悔をしないためにも時間の経過とともに発生する可能性がある事柄を先読みし、「今、このタイミングで何をするべきか」を考えて行動していくことが大切です。

今後の連載では、仕事と暮らしに役立つさまざまなタイミングの事例をご紹介します。どうぞよろしくお願いいたします。

(株)プライムタイム 代表取締役 坂本敦子)



検査の目

— 鋳鉄製組合式温水ボイラーセクションの割れ及び漏れ —

鋳鉄製組合式温水ボイラー

	ボイラー①	ボイラー②
最高使用圧力	30m	20m
伝熱面積	4.52m ²	6m ²
セクションの数	7枚	5枚
設置年	昭和54年	昭和56年

1. 概要

ボイラー①及びボイラー②は、別の事業場に設置されているもので、それぞれ同型を2基設置している。使用目的は、①は建物の給湯用、②は建物の暖房用である。稼働状況は、①は24h:同時運転(通年)、②は11h/日:交互運転(11月～4月)となっている。

性能検査時の水圧試験において、①は後部セクション